

特 42
5
448

訂 親 世 流 謠 別 能 十 八 番

三 笑
名 遊 艇
芬
水 學 自 報
奇 古

三笑



レテサレ
晋の惠書、廣山のふに居て二十

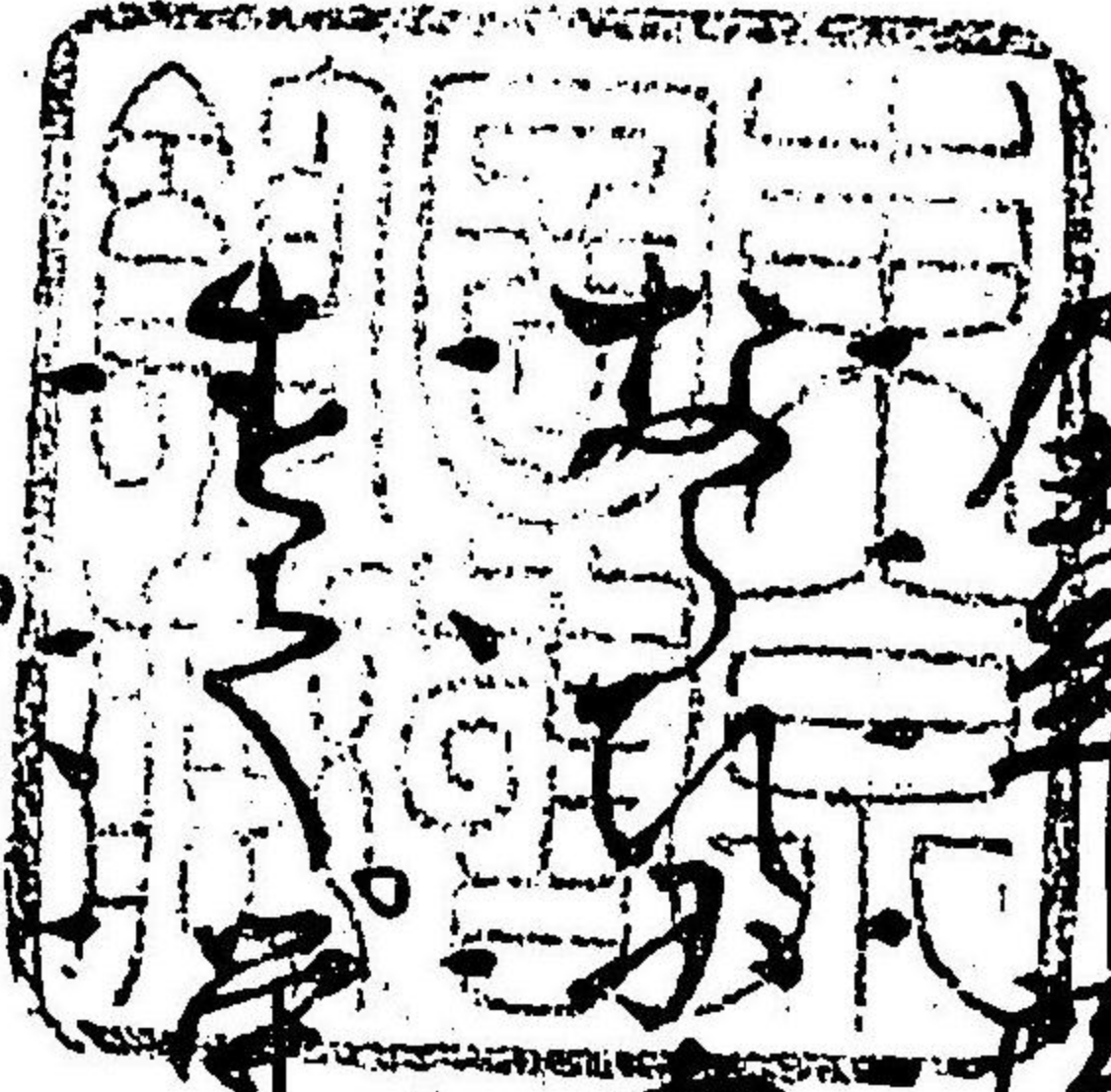
余年、廣山を出て白蓮社をむす

むす。十八の貧有、家、校百人、世

をく。家をもきく。あつ。西方を誦

し。お字を礼して。此、茶、席、よ、遊、止、の

下、手、同、
か、つ、て、後、ま、さ、を、推、し、出、し、居、ま、さ、り、て



言... 行... 康... 洞... 乃... 天... 行... て...

霜... 交... 粘... く...

了... 其...

書を以て御印を招きたりて天
 多し大に拜とす。急山乃ゆ一寺
 石橋を以て志のふ流の所。巖下腰
 せうも瀑布と称せし。約三千世衆入
 眠る所。禁十二因縁の所。中。此の
 女。清。いた。惠。ま。得。師。の。今。ま。の。公
 何事か。い。と。梅。意。出。し。て。り。

宿し去る。是。僧。あり。い。と。下。の。ふ。の。り
 今。ま。の。後。に。申。作。梅。瀑布。と。い。ふ
 中。の。の。の。謂。乃。有。と。い。ふ。

此。の。の。の。の。高。山。の。所。に。瀑
 布。と。い。ふ。日。暮。が。さ。て。て。紫。煙
 せ。な。り。梅。意。入。り。て。梅。意。入。り。て
 天台。小。掛。寶。入。と。題。し。て。る。

下さうりか下一 だんちよ入馬力は勢
 裁一易分多 噴く林梢より向
 けく夏雲と暮一 虫よこまつ
 てるよの春雷をたふ 驚く
 是銀けり水たのま 入国へ
 落く 命く 心く 心く
 三田守 双のひ 龍 今と 拜 あり 心

こそ思ぢりたれ 本より 琴待酒の
 友なまの 心 あり 夢よ 夢よ 夢よ
 かしこ 柳 此 例 あり 及 影 澤 水
 今より 官に あり 夢よ 十 全 印
 心く 去と 夢よ 日 夜よ 酒と 愛 一 松
 菊を 致す 菊を 東 都の 夢よ 念つて
 南 出 たり たり 夢よ 君に 夢よ あり あり あり

陸・緒・部・の・察・計・月・帝・の・時
 仙乃法を学して陸緒部ハとて
 後小の通山の前寂觀ハ隠居して
 身一海をへんく天下に生きたる
 のを其の心子事ハの序山は虎溪は
 一竹乃想々好なりきり 菊乃事
 露つり竹をみりて不老死の樂也

いはなごころ〜 幾萬代もかへり
 生きたるは白菊の如く夜をくむべき
 也酒粒の舞もや人の心むかひに
 青萬代をくも松ハ久しは例なり
 松をくみたりある年を老
 松も緑わたり木は松小松四季にきと

あゝ... 粟の... 盤木... の... 松... 菊... と... 愛...
 昔... と... 鶴... の... 影... の... 影... 左...
 右... の... 影... の... 虎... の... 影... 左...
 給... の... 影... の... 影... の... 影... 左...
 影... の... 影... の... 影... の... 影... 左...
 影... の... 影... の... 影... の... 影... 左...

鳥長

^馬 加... 後... の... 影... の... 影... の... 影... 左...

殿... の... 影... の... 影... の... 影... 左...

日... の... 影... の... 影... の... 影... 左...

湖... の... 影... の... 影... の... 影... 左...

ら... の... 影... の... 影... の... 影... 左...

あ... の... 影... の... 影... の... 影... 左...

頼もぬ日暮ぬは新詔の事なるに
 甲部社寮より下り其留守よりかろ
 け方と花さるにやれたるもの人若
 け度くばまうとて鳥たけきうも若
 毛ぬか洞花わの殿と應申田はこれ
 考成れも務中とて中と存ぶうに業内
 中山だは「射」参りて「た」に射と
シテ女

何の爲に唯と多く持とう男はくぬぬい
 秋のは所下向者入まうやん
男
 いたてたうとて「射」作野ん
男
 けし「唯」今とて事御若候
 けし「苗」年とてわうの船受は身
 かりきうとて若さくは若若殿は
 かりしとて若さくは若若殿は

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

果報の事

しよらさくく日其書の影若きう
ゆく甲斐もあつてあつてあつて
まーや書カつたなしたまは
思へともあつたものいふ
書カもよなきる露ちり書
猶葉書あつたよきむさく
素と及けらるる戸せあつて
子

交ちひ立ちく 秋アキ色うら
古里よくあつたうそつて
甲子

是の九列目うらあつて作
梅もさけう自新の事うらあつて
十ヶ年よ多しと云はるる自新
あつてく安塔一書後乃眉と聞
唯いあつたあつたあつたあつた

世に

上

御前より ありおぼひにひらけりて

被の音にまゑんへりてひらけりて

孝くまゐりて入 母へるかとて

去りありて九列までへりて身は母

社にいつりて見よまゝく作(母のなま)

侍ぐりて中とてなり 廿一男 ありて

唯白き早苗に終りまゝく入る

女子
子女
六七

そらくお舟よぎりての身とおぼひ

抄るにうへ身へ下りて思ひ

教むまゝあるまゝとてなれり

舟に鶏被をうり ありて

廣うを作りて 又も小舟よる

うまき ひらけりて 隣に舟に席敷

地 六八上
うまき ありて ありて ありて ありて

花のうらみよきと
花のうらみよきと
 づつなふ^其どかきもまたあまのさくら
 きよくあまのさくらさくらさくらさくら
 水鳥のうづらゆる家あふはせしやうち
 さぎくぬく田のほのまのなまのまのまのま
 志の三箇白の鳥あふ情をいじらるる
 花の雨のまらるるまらるるまらるるまらるる

舟の舟て柳も羊よ「お妻あひ
 もよとあまのさくらさくらさくらさくら
 頼花のうらみよきとれくはらもさくらも殿この
 秋乃は下とあまのさくらさくらさくら
 おもひさしそむきもさくらさくらさくら
 かなんさくらもさくらさくらさくらさくら
 果報のさくらさくらさくらさくらさくら

引^上きも落^上花のあ^上り^上のあ^上り^上き^上ら^上ひ^上
 了^上る^上新^上給^上乃^上ち^上ら^上ひ^上。此^上方^上れ^上と^上に^上に^上
 有^上ら^上る^上亦^上と^上在^上奈^上し^上終^上り^上を^上危^上凶^上射^上
 情^上あ^上る^上者^上あ^上ら^上ば^上し^上ら^上る^上者^上も^上し^上ら^上
 母^上御^上よ^上に^上お^上し^上り^上ま^上し^上申^上事^上よ^上も^上し^上ら^上
 一^上あ^上ら^上れ^上女^上は^上よ^上け^上ら^上る^上と^上に^上に^上に^上に^上
 ち^上や^上新^上給^上乃^上ち^上ら^上ひ^上を^上お^上し^上り^上交^上

ち^上や^上新^上給^上乃^上ち^上ら^上ひ^上を^上お^上し^上り^上交^上
 事^上の^上あ^上ら^上る^上事^上に^上に^上に^上に^上に^上
 女^上の^上身^上の^上あ^上ら^上る^上事^上に^上に^上に^上に^上に^上

此^上男^上の^上あ^上ら^上る^上事^上に^上に^上に^上に^上に^上

子^上の^上あ^上ら^上る^上事^上に^上に^上に^上に^上に^上

久^上し^上給^上乃^上ち^上ら^上ひ^上の^上あ^上ら^上る^上事^上に^上に^上に^上に^上に^上

う^上危^上凶^上射^上乃^上ち^上ら^上ひ^上の^上あ^上ら^上る^上事^上に^上に^上に^上に^上に^上

あつたてをよもす入乃後れ救きて
思シ方ハ乱レ事シテ救ヒたル事ハありあはる
穀乃筋方と指ひさし入やましく後
るレ也ナリ家ノ難シテ三女ト目ノ
日ハまキなル事ハ數ハまシて飛ニキる事
よシく聞ク事ハたカく入ル事
鳥ガまシる事ハト云フ事ハいハる事ハト云フ事ハいハる事

いハる事ハト云フ事ハいハる事ハト云フ事ハいハる事
穀乃救うレ事ハたカく入ル事
男ノあツたテ也ナリ今ハ果シて田ノ鳥ノ

皆キつテ夫レ者ノ御ノ体ノ人ノ
毎ハ縁ヲ入ル事ハ古クなル事ハいハる事
不レ鶏ノ救ヒ事ハいハる事

不レ鶏ノ救ヒ事ハいハる事
不レ鶏ノ救ヒ事ハいハる事
不レ鶏ノ救ヒ事ハいハる事
不レ鶏ノ救ヒ事ハいハる事

世に於ては

子上

多事

に於ては

親の御心を

親の御心を

捨舟の御心を

干乃良清

之

平

之

胎

親

歳

唯

も

今

平

不祥ありて... 我らも... 免し御座せ... 赤松乃... 左近尉... 穢らふ... 取立...
不祥ありて... 我らも... 免し御座せ... 赤松乃... 左近尉... 穢らふ... 取立...
不祥ありて... 我らも... 免し御座せ... 赤松乃... 左近尉... 穢らふ... 取立...

藤

山又か... 出... 我州... 愛... 善... 雪...
山又か... 出... 我州... 愛... 善... 雪...
山又か... 出... 我州... 愛... 善... 雪...

新長江の里もはなれぬまの川
朝へ暮るまでよのほろひの
と平きくもよはひ養うら
多胡の浦もよきまの
是より朝平は多胡の浦も
急てはげすむる名所と
おふ城おあはれもあはれ
今ぞ盛ん

てははきくもよのほろひの
ゆわの浪も同くまの浦も
よきまの浦もよきまの
の思ひ出れては
橋よやまき事の
あはれもあはれ
果は多胡
の浦もよきまの

色は味はくさるる事なれど思はれぬ
まじりぬ月影は影をいれぬ女とて
社をさるは女人のくはさむをいつい
く疑ふ可もさくたへ情もてま
しましう死あるたの情好成
馬法の一葉をぬく用ふる花の英は
まは是は顯も出ぬまはつあ

有縁や去あへん心も詞さうふ
すや何の故さへさへして異性
化身自在不滅の縁よひりきて終
彦舞舞とあつたまらりたり
あえまね言傍語も此公案
の因縁はあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

昔我よ夏立花の自よよそにぬ
其の人を花のさむけ悟の義は悟て
秋夜ぬよきいも月影の影よ
浦安のよお夜更してヤサ白浪ヤサ
ゆらく村の島友よヤサ花をヤサ花をヤサ
きり菊のきり上レテ花上レテ
移し目のおまへにヤサ花をヤサ花をヤサ

てあつりくし上レテ花上レテ花上レテ
子別霞言行雲の如くヤサ
おヤサ花ヤサ花ヤサ花ヤサ花ヤサ
みゆ花の如く上レテ花上レテ花上レテ
か上レテ花上レテ花上レテ花上レテ
まゆ花の如く上レテ花上レテ花上レテ
か上レテ花上レテ花上レテ花上レテ
まゆ花の如く上レテ花上レテ花上レテ

かろりて嘆友の 上 薄雲のまじり

袖さうへに舞姫 シテ上 舞うまゝ入る人

折柳落し梅 花 あらうひりたう

下 最生野を 上 浦ぬきも白ひを深

海松の葉まきさう 遠月多湖の浦也

小吹よしもさう 田 花 浪を綾と糸

舞の袂月おし 花 かに只新も移る

流るる 花 影さし 花 月おのり

かろりて 花 だ 花 へ 花 入 花 入 花 入

水戸月稿

^早果以下京邊より信居する者あり

我らる子細育て播磨乃國より

久しき室乃津より逗留乃同相

あきりし女若公ふ都はのほりあ

うあらし近きやあらし

堅く契約申してははきり此ほと

室の津入御^とまき^しの^ま御^の飯
 女^の由^り作^り同^じ今^も尋^ねぬ^べし
 中^の色^も多^く作^られ^り又^し今^も尋^ねぬ^べし
 後^も一^つ程^よ、^又新^の明^神よ^も多^く
 中^の飯^邊瀬^も頼^も申^せ中^と存^作
^れ見^入此^の方^子位^付仕^ら者^あて^の
 今^日水^せ月^後あ^まの^程よ^に入^り

美^らお^と存^作 ^{コキ}あ^ま見^入存^作 ^{コキ}
 紀^へ清^と美^らう^も某^も申^入へ^り
^報分^令き^ら以^て都^乃人^あく^あり^ます^ら
 不^悉業^内き^らや^う信^よ ^{コキ}信^如く
 都^の者^あて^の久^く田^舎よ^り
 して^一時^上の^故様^ま ^報言^入 ^{コキ} ^{コキ}
 左^程の^方も^あり^ます^ら申^入

作レ之一比キも亦キふレ申上程有る
然レしキ事有るハ 仕庭のさく熱ハ
しらまじちなるハ 程よ多クならむニ 且シ
事も多クいはん 洗所手洗は
集テ面自まじらぬ 程有るハ 程成申上
のハ 仕庭の女おねのさく 現ハ
やうふ家らハ 後さくハ 水を月後の

論さもと 仕庭のお第のさの謂と申
てくらまいらるハ 非もあらずハ
さら 仕庭のいはん 仕庭のいはん
何ハ 仕庭のいはん 仕庭のいはん

何ハと 仕庭のいはん 仕庭のいはん
いはん 仕庭のいはん 仕庭のいはん
さら 仕庭のいはん 仕庭のいはん

△河氷小粒也くよりもまじうれきん

思ふぬ人と男の妻の跡と志すべく

つゝありのせの流るる中賀

名乃御手洗川よ作くお君ごとの

名都の稜して此御越はせ給へ

とよまを信くも人あはれ志く彼の

本錦志くかくる愛をまじり

表 刻路と

そくま神ありん ^{上地} あとう逢頼れお

とくま ^{シテサレ} 空也のもあくるぬ方よも

たくとく在原の跡の昔よ葉平

乃此河ち方よ戀き ^ト ちき ^ト 乃

うきも大ぬらりひくくあまこの

人心頼むひあま ^ト ちき ^ト 乃

思ふぬ人と男の妻の跡と志すべく

身入

髪をのけ糸に糸を

逢瀬とふれり

^{上巻目}夏や秋

行ふ空の通路へて涼を

ぬく水手洗の濁り

まの髪をのけ糸に糸を

頼を懸てし人よ

小車のかきおのり

抄言

^海と戸を物ね、是とての詞を掛輪の

習と戸を物ねと云ふ人

いと詞を説き謂ふ

思ふ女はうよも

よとつるたる輪を

都とて云ひ名を

笑はる人

稷の謂とやてなまきとまをせはる

^早はらへ懇よ語きし^レテ 考あも

天照太神皇孫とみし原の中津

國の清まこと言ひしと有り

に、意振神への満て、螢火のそく

ありしと、事代主の神おこり稷

給ひしと、くづる白の部乃始あま

ざらむと、言ひしと、あまあはる

神もた、あはる、あまあはる

後、あはる、あはる、あはる

夏乃蠅のあはる、あはる

ざらむと、言ひしと、あまあはる

るよ後と、あはる、あはる

後、あはる、あはる、あはる

五... 輪... 五

障乃雲霧也 今又ありまぬ

時とく 水さりのくも都

の報いもる人の千年の命のまじ

了きま輪の越るは報のい輪を

都... 輪の謂とまして

人... ありまぬあり

報いのまじくまじく一子も報の

まじくまじく輪越るは報のい輪を

輪あつはせ終るもつらつらく震そ

雲霧の宮くよまらせ終るは報

けの浪よりともみ輪とちり越る

を信あつりまらば早振神れり

も越るをし... あり

道と事と。まゝ事にあつても
方な道にあらざる。今日の名存の論
をさして。美し給くや。美也。まゝ
二葉入。葵年よりして。雲も
夕暮の神代今の世にあら
まゝ。おまゝ。これ後にあつても。志は
清まらね。後への後の白和幣

麻の葉の音。和幣。行。麻の葉
拾言の身と。清く。まゝ。まゝ
成すまゝ。まゝ。神も。まゝ。まゝ
笑者のまゝ。まゝ。まゝ。まゝ
げまゝ。まゝ。まゝ。まゝ。まゝ
て。清く。まゝ。まゝ。まゝ。まゝ
まゝ。まゝ。まゝ。まゝ。まゝ

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

おぼろげな光景を眺めたりするも

オヤケ

泣きもろくもやもなほも肩も私も
 髪は髪者の社へすこくと歩
 よろくの氷のあや異服身くまくと
 倒し^{ハシテ}ては位居き^{ハシテ}る^{ハシテ}カ
 梅さつりま^{ハシテ}り^{ハシテ}其事さこのひに
 へて^{ハシテ}寝る^{ハシテ}る^{ハシテ}身^{ハシテ}痛^{ハシテ}し^{ハシテ}て
 着^{ハシテ}る^{ハシテ}その^{ハシテ}人と^{ハシテ}わ^{ハシテ}る^{ハシテ}と^{ハシテ}種^{ハシテ}あ^{ハシテ}る^{ハシテ}現^{ハシテ}

あまのつらみはなだたく多きも思ひ
 心^{ハシテ}胸^{ハシテ}づら^{ハシテ}む^{ハシテ}を^{ハシテ}あ^{ハシテ}り^{ハシテ}あ^{ハシテ}ら^{ハシテ}い
 う^{ハシテ}も^{ハシテ}思^{ハシテ}へ^{ハシテ}も^{ハシテ}歎^{ハシテ}頼^{ハシテ}む^{ハシテ}惠^{ハシテ}普^{ハシテ}ま^{ハシテ}し^{ハシテ}ろ^{ハシテ}の
 と^{ハシテ}ま^{ハシテ}立^{ハシテ}神^{ハシテ}垣^{ハシテ}も^{ハシテ}隔^{ハシテ}あ^{ハシテ}る^{ハシテ}上^{ハシテ}地^{ハシテ}の^{ハシテ}心^{ハシテ}も
 習^{ハシテ}ら^{ハシテ}ぬ^{ハシテ}吹^{ハシテ}波^{ハシテ}の^{ハシテ}宮^{ハシテ}居^{ハシテ}上^{ハシテ}地^{ハシテ}の^{ハシテ}心^{ハシテ}も
 や^{ハシテ}物^{ハシテ}言^{ハシテ}ら^{ハシテ}同^{ハシテ}く^{ハシテ}多^{ハシテ}き^{ハシテ}行^{ハシテ}ふ^{ハシテ}玉^{ハシテ}君^{ハシテ}乃^{ハシテ}操^{ハシテ}
 と^{ハシテ}あ^{ハシテ}ら^{ハシテ}も^{ハシテ}た^{ハシテ}く^{ハシテ}是^{ハシテ}紅^{ハシテ}の^{ハシテ}御^{ハシテ}神^{ハシテ}乃^{ハシテ}傳^{ハシテ}惠^{ハシテ}

水月

一巻

あうとこあ〜く^カき〜りか〜
て妹背うら〜り^カき〜り

尋古

築^{チキ}路の白^{ハク}山^{サン}々々^{々々}夏^{ナツ}陰^{カゲ}の^ノ影^{カゲ}
如^ニく^ク如^ニく^ク如^ニく^ク如^ニく^ク
麗^リふ^フ信^シ信^シ信^シ信^シ信^シ信^シ
の^ノ老^{ラウ}た^タあ^アぬ^ヌ男^{ナノ}神^{カミ}子^コの^ノ妻^メの^ノあ^アら^ラふ^フ
娘^{ムスメ}と^ト付^{ツキ}合^{アヒ}ふ^フに^ニ似^ニて^テき^キ〜
〜^ニ由^ユ事^{コト}の^ノ程^{ハジメ}ふ^フし^シ百^{ヒャク}々^々出^デら^ラふ^フし^シ

尋古

く東白。西くわも井う深父の山が極
よ見入ての 眞^{ニテ}強^{ニテ}も積^{ニテ}ま^{ニテ}か^{ニテ}い
や^{ニテ}き^{ニテ}く^{ニテ}あ^{ニテ}し^{ニテ}か^{ニテ}さ^{ニテ}は^{ニテ}考^{ニテ}い^{ニテ}あ^{ニテ}い^{ニテ}あ^{ニテ}
親あ^{ニテ}く^{ニテ}老^{ニテ}け^{ニテ}程^{ニテ}可^{ニテ}勞^{ニテ}は^{ニテ}の^{ニテ}同^{ニテ}生^{ニテ}死^{ニテ}
の^{ニテ}た^{ニテ}し^{ニテ}と^{ニテ}考^{ニテ}す^{ニテ}べ^{ニテ}し^{ニテ}る^{ニテ}よ^{ニテ}の^{ニテ}考^{ニテ}す^{ニテ}を^{ニテ}
も^{ニテ}と^{ニテ}考^{ニテ}す^{ニテ}か^{ニテ}ら^{ニテ}ん^{ニテ}。ま^{ニテ}今^{ニテ}夜^{ニテ}の^{ニテ}可^{ニテ}勞^{ニテ}を^{ニテ}
考^{ニテ}す^{ニテ}よ^{ニテ}。傳^{ニテ}傳^{ニテ}一^{ニテ}傳^{ニテ}う^{ニテ}同^{ニテ}よ^{ニテ}の^{ニテ}考^{ニテ}す^{ニテ}て^{ニテ}

水^{ニテ}金^{ニテ}三^{ニテ}の^{ニテ}の^{ニテ}重^{ニテ}結^{ニテ}よ^{ニテ}顯^{ニテ}ふ^{ニテ}そ^{ニテ}行^{ニテ}須^{ニテ}
孫^{ニテ}へ^{ニテ}金^{ニテ}精^{ニテ}よ^{ニテ}る^{ニテ}長^{ニテ}く^{ニテ}て^{ニテ}も^{ニテ}た^{ニテ}あ^{ニテ}十^{ニテ}六^{ニテ}
万^{ニテ}由^{ニテ}旬^{ニテ}の^{ニテ}勢^{ニテ}か^{ニテ}し^{ニテ}。四^{ニテ}列^{ニテ}幸^{ニテ}樂^{ニテ}の^{ニテ}波^{ニテ}ふ^{ニテ}
う^{ニテ}こ^{ニテ}ひ^{ニテ}。金^{ニテ}銀^{ニテ}珀^{ニテ}石^{ニテ}瑠^{ニテ}璃^{ニテ}玻^{ニテ}珠^{ニテ}か^{ニテ}海^{ニテ}う^{ニテ}う^{ニテ}
新^{ニテ}五^{ニテ}重^{ニテ}色^{ニテ}空^{ニテ}空^{ニテ}雲^{ニテ}よ^{ニテ}移^{ニテ}ふ^{ニテ}う^{ニテ}れ^{ニテ}の^{ニテ}頂^{ニテ}
孫^{ニテ}う^{ニテ}き^{ニテ}う^{ニテ}り^{ニテ}び^{ニテ}よ^{ニテ}う^{ニテ}く^{ニテ}。南^{ニテ}瞻^{ニテ}部^{ニテ}列^{ニテ}
の^{ニテ}草^{ニテ}木^{ニテ}な^{ニテ}ら^{ニテ}う^{ニテ}あ^{ニテ}つ^{ニテ}ら^{ニテ}う^{ニテ}。想^{ニテ}を^{ニテ}南^{ニテ}へ^{ニテ}

昔一と云ふは、
此子の世に于ては、
其の疾を治すに
あつても生れ病死す
次申すは、
其の疾を治すに
あつても生れ病死す
次申すは、
其の疾を治すに
あつても生れ病死す

さうしたるは、
命給せよと申すに
あつても生れ病死す
次申すは、
其の疾を治すに
あつても生れ病死す
次申すは、
其の疾を治すに
あつても生れ病死す
次申すは、
其の疾を治すに
あつても生れ病死す
次申すは、
其の疾を治すに
あつても生れ病死す
次申すは、
其の疾を治すに
あつても生れ病死す

當面暖舌の語つ。嘗つ子ハ子成
きつく。不思愛也。は子まきり。はく
人そ。伊勢乃玉の者。在可き
二見忠浦。父の名字ハ。二見の
ま。海會乃何某。信其父ハ。別
て。一。年ハ。年。梅おん。このま
名。幸菊丸と申也。と。り。ま。

神の。一。合。ま。是。行。父。の。有。某。ハ
梅。一。年。ハ。年。梅。お。ん。こ。の。ま
ま。海。會。乃。何。某。信。其。父。ハ。別
て。一。年。ハ。年。梅。お。ん。こ。の。ま
名。幸。菊。丸。と。申。也。と。り。ま。

せしむ。面々名おの一曲上みくらけ
 あり様をさし入長けりありの序
 雲々くはの世は味いある有一
 明有も後かおの自か言
 あとさしを事一の虎の巻野は鏡
 一さし入る自事へ思ひありてま
 ち一さし入る事一の巻一。はる百華

の齡をさし入る自事へ思ひありてま
 け事入る思ひありて今ま
 上は泡子上は満してはありあり
 魂ハ籠中志身上の用と待へま
 よみわく一情ありの二度ハあり
 ちれき重てあり名頃史了生
 威一刺およ離教とくあり

教に迷ふ所はもてんをう教を
此の如く簡魔法は入河責の
業は更なる名利を技をた
くまう煙をまぬれ其を愛する
を惱むるは黄泉の責に随入
るるはう為小地をたむる
はてはたむるはたむるは

所はたむるはたむるは
傳の如く思入る書文は
折て故入るはたむるは
るるはたむるはたむるは
はたむるはたむるは
はたむるはたむるは
はたむるはたむるは
はたむるはたむるは

や下劣。貧賤のほしよおしおまお
ころ其罪のうらみよあはれし
うもつる罪業よあはれし
まよの地獄のうらみよあはれし
あまきあまき截断して血狼藉たり
一日のうらみよあはれし
地獄のうらみよあはれし

とれは百毒もくくく
時よまよのうらみよあはれし
地獄のうらみよあはれし
ろくは羅入さるる次の火盆地獄
あまきあまき
骨よりえつくたあまき
焦熱大焦熱のうらみよあはれし

大紅蓮花氷（紅蓮）又（紅蓮）ら（紅蓮）は（紅蓮）鐵杖（鐵杖）入
 火（火）燥（燥）穴（穴）く（く）と（と）やく（やく）
 鐵丸（鐵丸）との（の）湯（湯）し（し）て（て）銅（銅）け（け）ず（ず）飲（飲）さ（さ）る（る）や
 地獄（地獄）た（た）る（る）し（し）さ（さ）む（む）量（量）なり（なり）餓鬼（餓鬼）も
 昔（昔）も（も）い（い）ま（ま）ら（ら）な（な）し（し）た（た）身（身）より
 出（出）ま（ま）り（り）科（科）ま（ま）た（た）ら（ら）思（思）は（は）ら（ら）ず（ず）責（責）て

後（後）の（の）世（世）味（味）ひ（ひ）あ（あ）ら（ら）な（な）の（の）世（世）
 言（言）ふ（ふ）何（何）と（と）照（照）さ（さ）し（し）て（て）胸（胸）の（の）鏡（鏡）よ（よ）心（心）
 かく（かく）あ（あ）く（く）あ（あ）ら（ら）な（な）い（い）ま（ま）ら（ら）な（な）今（今）葉（葉）
 平（平）ら（ら）な（な）思（思）ひ（ひ）あ（あ）ら（ら）な（な）ま（ま）ま（ま）ら（ら）な（な）ま（ま）ま（ま）ら（ら）な（な）ま（ま）ま（ま）ら（ら）な（な）
 世（世）も（も）あ（あ）ら（ら）な（な）あ（あ）ら（ら）な（な）あ（あ）ら（ら）な（な）あ（あ）ら（ら）な（な）あ（あ）ら（ら）な（な）
 奴（奴）人（人）の（の）形（形）も（も）あ（あ）ら（ら）な（な）あ（あ）ら（ら）な（な）あ（あ）ら（ら）な（な）あ（あ）ら（ら）な（な）あ（あ）ら（ら）な（な）

一見の浦子島支心へん作勢志
國々へんおまへ

